

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400054		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホームべにばら妹背牛		
所在地	北海道雨竜郡妹背牛町字妹背牛406番地7		
自己評価作成日	平成22年10月	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0197400054&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道立社会福祉協議会4階
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんのケアについて、業務関係についてなど、必要時スタッフが気軽に話合せて、皆が協力し合える職場環境。アットホームな雰囲気が良いケアにつながっています。

まだまだこれからではありますが、地域の皆さんとの関わりを大切にしています。利用者さんにとっても、事業所にとっても良い効果を得られます。また、地域にとっても良い効果となるようにと思いい活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、町内の住宅街に位置し交通の便もよい。平成20年に開設で、比較的新しい事業所であるが、近隣には役場や幼稚園、保育園などがあり子供達との交流をはじめ、近隣住民との交流も良好である。また、職員間のコミュニケーションも良好で、意欲と熱意をもって利用者の支援に取り組んでいる様子が伺える。更に、利用者との馴染みの関係も構築されており、家族のような穏やかで自然な生活の雰囲気が醸し出され、利用者のゆったりと落ち着いた生活が確保されている。運営推進委員会も定期的に開催し、軌道に乗ってきており、事業所から認知症についての資料を地域に発信して、地域住民の認知症に対する理解を深め、さらには契機に地域との交流にも力を入れている。また、事故を未然に防ぐため、職員の気づきが報告されており、日々利用者を注意深く見守り、観察している点はとても優れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフが意見を出し合い理念を作った。ホーム内に掲示したりネームの後ろに記入することで把握し、実践に努めている。	職員全員でつくりあげた独自の理念を事業所内に掲示し、職員のネームプレートには理念を記入して、常に振り返って理念に基いた実践につなげるよう共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入らせて頂き、町内の行事や町の催しに積極的に参加している。ボランティアの活用も行なっている。	町内会に加入し、町内清掃などの催物や行事に、利用者の力量に応じて参加している。又、事業所の焼肉パーティーや避難訓練などは地域の人々にも参加、協力をお願いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、町の事業で認知症のお話をさせて頂いたが、機会は少ない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や取組みを報告し意見を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、定期的に行われ事業所の現状や取り組み等を報告して意見交換を行い、意見や提案は事業所の運営に活かしている。認知症についての資料等も事業所から地域に向けて発信している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加し、情報交換を行ったり、必要時連絡を取り合い協力を築いている。	毎月地域ケア会議に参加し情報の交換を行っている。他施設合同の研修会には、事業所の職員も参加している。町の担当者との連絡を密に行い事業所の運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束のないケアに取り組んでいるが、全員の理解は不十分。	毎月のスタッフ会議で身体拘束についての話し合いをし、年間の研修計画の中でも身体拘束の勉強会を取り入れている。記録も残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で取り上げ、虐待防止に努めているが、全員の理解は不十分。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、学ぶ機会を設けたが話し合いや活用までは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約、改定は現在該当ないが、締結に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や必要時は随時意見や要望を聞き反映に努めている。第三者苦情受付窓口を設置している。	職員は家族の来訪時に話しかけをして、利用者家族からの要望や意見が表出できるよう取り組んでいる。第三者の苦情受付窓口も重要事項説明に明記している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見や要望を取り入れている。	管理者は、毎月会議を開き職員の意見や提案を聞き事業所の運営に反映させている。職員の担当を決めている(行事、接遇教育、物品、防災、栄養、感染予防の5項目)記録も纏めている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行なうなど把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを振り返る機会を作ったりホーム内外の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は月1回の地域ケア会議で交流の機会があるが、スタッフは研修等で交流する他は機会はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談し話を聞き思いを汲み取って関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行い思いや要望を聞き信頼できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協力し合い生活できるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のより良いケアのために話し合い協力しながら関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に応じてなじみの場所へ出かけている。友人等の来訪時はゆっくりと過ごして頂けるよう関わっている。	職員は利用者の希望に応じ、馴染みの理美容院に出かけたり、馴染みの店での買物をするなどして、今までの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように配慮しながら利用者同士が関わりあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当はないが、必要に応じ支援して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話聞き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は言葉や表情などから本人本位に検討を行なっている。	職員は、利用者一人ひとりと向き合っ て希望や意向、思いの把握に努めてい る。家族から暮らし方や習慣等を聞き、 職員と利用者の会話を記録に残して利 用者本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご本人やご家族から聞き取りを行い、記録などから情報共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎや記録などで把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、スタッフ同士で話し合い作成している。	職員は、利用者が安心して暮らすこと ができるよう、日々の記録を基に本人 家族と話し合いその内容を反映させ現 状に即した介護計画を作成している。 職員は利用者の担当を決めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や毎月のケアカンファレンスで情報共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせてご家族や関係者と協力し合い支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人やご家族の希望を取り入れながら適切な医療が受けられるよう支援している。	事業所の協力医の訪問診療を月2回 受けているが、今までのかかりつけ医 や希望の医療機関への受診の支援も 行い医療機関との関係を密にしてい る。	

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報は常に看護師と相談している。診療所へも定期的に情報提供し支援をおおぎ、適切な支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者と連絡を取り合い早期退院に努めている。関係づくりに関しては管理者以外のスタッフは不十分。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しての話し合いは行っていない。	重度化や終末期については、まだ家族と十分な話し合いは行われていない。	事業所は、重度化や終末期についての指針をつくり利用開始前に示し、段階的に家族の意向を確認しながら対応方針を共有していくことが望まれる。。事業所の力量を把握して率直に話し合い医療機関、家族と連携を取りチームで支援していくことも望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、マニュアルも作成しているが定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては定期的な訓練を行い地域との協力体制も築いているが、その他の災害時は不十分。	火災に関しては、消防署の協力を得て定期的な訓練を行っている。地域の協力体制も築いている。	火災時ばかりでなく、災害時の昼夜を想定し具体的な避難対策を検討し、地域の協力も得て適切な避難誘導が出来るよう備えておくことが大切である。災害発生時の食料や物品の備蓄についても考えておきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーを損ねない対応に努めている。	職員は、利用者の人格を尊重し、誇りやプライドを大切に声かけや態度を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞いたり、表情や言葉から読み取り、または提案するなどして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっていたり、外出など時間帯によっては希望に添えないこともあるが、出来る限りご本人のペースで過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、散髪、化粧など出来る限り支援している。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて一緒に行なっている。	職員は利用者の力量や希望に応じて食材の購入や食事仕度を一緒に行い、食事が楽しく出来るよう工夫をしている。献立も利用者の希望や好みも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立で提供している。水分が不足しがちな方もあるが、状況に応じて支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	全員が毎食後ではないが一人ひとりに合わせ行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や情報交換しながらその人に合わせた声かけや支援を行なっている。	職員は、排泄記録などから一人ひとりの排泄パターンを把握し、その習慣をもとに、自尊心に配慮した声かけや誘導を行い、自立にむけた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳や野菜を多く取り入れる、毎日身体を動かすなどの取組みを行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決めさせて頂いているが、その中ご本人のペースで入浴できるよう努めている。	入浴は週2回、2時から4時を目途に希望に応じて支援しているが、状況によっては利用者に合せた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて休息したり睡眠の支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を行なうなど理解に努め、変化の確認にも努めているが、不十分な部分もあり、今後も理解を深めていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレク、一人ひとりの力に合わせた活動など行なっている。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて外出支援を行なっている。普段は行けない場所でも協力を得て対応したい。	事業所では利用者との散歩、買物などを日常的に行い、利用者の希望により昔住んでいた家や馴染みの場所に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望に合わせて所持している方もあるが、他の方はスタッフ管理で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や、温度調整、換気など居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	職員は利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切に、季節感のある落ち着いた共同空間作りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置の工夫などでトラブルを避け、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものや好みのものを持ってきて頂き居心地よく過ごせるように支援している。	仏壇を置いたり、家族の写真を飾ったり、馴染みの家具、調度品を備え、その人らしく安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各居室にわかりやすく掲示し自立した生活が出来よう努めている。		